

平成 23 年度
広島市教育センター

低学年の読書力を高める学習指導に関する研究 －「読みの交流会」を通して－

広島市立彩が丘小学校教諭 瀧口久子

研究の要約

PIRLS (Progress in International Reading Literacy Study) の読書力の定義をもとに、身に付けさせたい読書力を①読書への興味・関心、②本や文章を選ぶ力、③読書したことを適用させる力ととらえ、本研究での学習モデルを作成した。実践では、低学年の読書力を高めることをねらいとして「むかし話を読んでつたえあおう」の単元を全11時間計画で構想した。また単元を貫く言語活動として「感想交流会」を設定した。手だてとしては、小学校学習指導要領国語科「読むこと」の指導事項オ「自分の考えの形成及び交流」を意識した「自己内対話」「グループ対話」「全体対話」を取り入れた「読みの交流」を設定し、検証授業を行った。その結果、児童に①読書への興味・関心、②本や文章を選ぶ力の向上が見られた。さらに、③読書したことを適用させる力に関しては、質の高い「読みの交流」を生み出すための応答の言葉の傾向が分かった。

キーワード：読書力、読書の指導、読みの交流

I 問題の所在

文化審議会答申（平成16年2月）では、国語の重要性や国語力向上の必要性が改めてうたわれている。国語力向上のためには「国語教育」と「読書活動」が最も有効な手段であり、これらは密接に関連していると明記されている。この点を踏まえて、答申では、「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことを目指している。

その後、中央教育審議会答申（平成19年1月）では、読書の指導について、「読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を内容に位置付ける」としている。これを受け、国語に関する「改善の具体的事項」の一つとして、読書の指導について「目標をもって読書し、日常的に読書に親しむようにすることや図書館の利用の仕方などを内容に位置づける」と示している。『小学校学習指導要領解説国語編』によれば、「読むこと」に関する指導については、児童の読書意欲を高め、日常生活においても読書活動を活発に行うよう促し、児童の読書力を向上させることが重要である」としている。

しかし、これまでの自身の国語科の「読むこと」における授業実践を振り返ってみると、文章を詳細に読んでいく学習指導の中では、途中で児童の意欲が低下してしまうことがあった。また、読書活動にも取り組んでいるが、選ぶ本に偏りがあったり、集中して読んでいなかったりする児童も見られる。それは、読書活動において、読書行為そのものが目的となり、読書のよさを感じさせる意図的な読書の指導ができていなかったことに起因していると考えられる。

そこで、本研究では意図的に読書の指導を行うことによって児童の読書力を高める学習指導について、授業実践を通して探ることとした。

II 研究の目的

低学年の読書指導において児童の読書力を高めるために「むかし話を読んでつたえあおう『かさこじ

ぞう』」の単元を構想し、学習指導の有効性を明らかにする。

III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 検証授業の計画と実施
- 3 検証授業の分析と考察

IV 研究の内容

1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 読書力とは

ア 定義

PIRLS (Progress in International Reading Literacy Study) では、読書力とは「社会から要求されているあるいは自分で価値があると思われる形の言語を理解したり使用したりする能力。年少の読者たちは、様々なテキストから意味を構成する (construct meaning) ことができる。学習するために、読者のコミュニティーに参加するために、楽しみのために読む。」と定義している。

イ 読書力の三つの側面

足立 (2007) によれば、PIRLSによる読書力の三つの側面は次のように説明される。

(ア) 読書の目的

PIRLS は、「読書の目的」を次のように大きく二つに分けて考えている。

- ・ 文学的経験のための読書
- ・ 情報を獲得したり使用したりするための読書

(イ) 理解の過程

PIRLS では、「理解の過程」を下のように4段階の学習行為でとらえている。

- A 明示的に規定された情報に焦点をあて、情報を引き出す
- B 直接的な推測をする
- C 考えと情報を解釈し統合する
- D 内容と言語とテキストの要素を考察し評価する

Aは、テキストに明示的に規定されている、関係

のある情報あるいは考えのある位置を突き止めて理解をすることである。Bは、テキストに基づいた直接的な推測をするために、表面的な意味を超えていくことである。Cとは、テキストの中の考えと情報のつながりをみつけるために、世界、経験、他の知識について理解を深めることである。例を挙げると次のようなことである。

- ㉞ テキストの情報を比較したり対照させたりすること
- ㉟ 物語のムードや調子を推測すること
- ㊱ テキストの情報の実際の世界への応用を解釈すること

(ウ) 読書行動・態度

PIRLS では読書に対して肯定的な態度を読書力の一部であると考えている。

今回の研究では(ア)については、文学的経験のための読書として昔話を取り上げる。(イ)については、「理解の過程」のA～Cをとりあげ、「読書したことを適用させる力」として検証を行っていくこととする。(ウ)については並行読書や読みたい本の題名や冊数を宣言するブックウォーク宣言等読書環境の整備に留意する。

(2) 読書の指導

『小学校学習指導要領解説国語編』では、目的に応じて本や文章を選んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視している。また、日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるように指導することも重視している。また、読書の指導では、読み手としての主体性を育てること、目的をもち意欲的に読書をする態度を育てること、読書をする喜びを味わわせることなどを通して読書意欲を高めることを重視する。さらに、読む目的に照らして読書活動を振り返り、どのような読む力を身に付けたかを確認し、読書生活に生かしていこうとする態度を養うようにすることが求められる。

(3) 読みの交流

『小学校学習指導要領解説国語編』においては、第1学年及び第2学年の「読むこと」の領域の「自分の考えの形成及び交流」に関する指導事項として「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」を設定している。

「読むこと」の「交流」の意義について村松(2010)では、「読書の量から質への転換を図るためには、作品とゆっくり対話する読み方を身に付けなければならない。他者と読みを交流すること、その中で多様な解釈や視点に出会うことが重要なのである。」¹⁾と述べている。

「交流」の手だてとして「対話」が考えられるが、難波他(2010)によれば、「読むこと」の対話の学習の流れとして、「自己内対話」「グループ対話」「全体対話」が考えられる。本単元の学習過程では「読みの交流」の機会を多く設定し、単元のゴールである「感想交流会」の学習に生かしていくこととする。

(4) まとめ

(1)(2)(3)(4)を受け、本研究でつきたい読書力を次の表のように設定した。

表1 本研究でつきたい読書力とその根拠

つきたい読書力	基礎研究からの根拠
① 読書への興味・関心	(1)ア読書力の定義、三つの側面イ(ウ) (2)読書の指導
② 本や文章を選ぶ力	(2)読書の指導
③ 読書したことを適用させる力	(1)三つの側面イ (3)読みの交流

また、PIRLSの「理解の過程」を「読みの交流」で行う対話の形態と照応させ、本研究での学習モデルを示した(図1)。

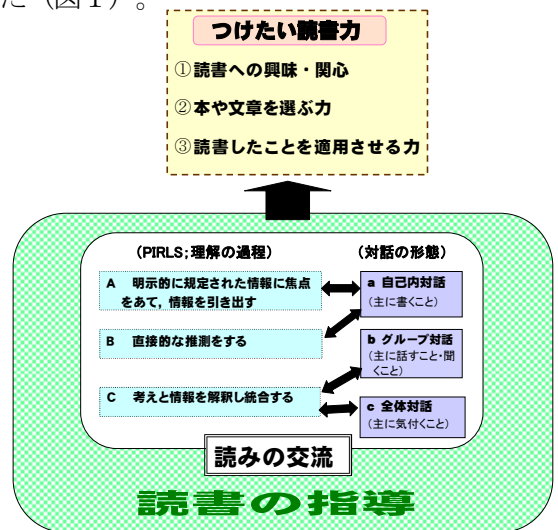


図1 読書力を高めるための学習モデル

2 検証授業の計画と実施

(1) ねらい達成のための工夫点

ア 学習過程について

初歩の読書技術が身に付くとされる2年生児童が自分で本を終わりまで読み通すことができるよう、全時間全文を読む経験ができるようにした。より多くのお話に触れることができるよう、学習過程ごとに扱う教材文を変えた。また、本学習のゴールとして位置付けた「感想交流会」に必要な力を少しずつステップアップさせる形で学習過程を計画した。さらに、目標を定めて並行読書で昔話を多読する経験をさせるよう計画した。

イ 読書環境について

児童の昔話を多読することへの意欲を高め、単元のゴールの学習に対する意識付けを図るために、学習当初から表2のように読書環境の整備を行った。

表2 読書環境の整備

個人に対して	学年に対して
・ブックウォーク宣言書 ・読書記録カード (図3)	・昔話コーナーの設置 ・学年の読書記録 (図4)

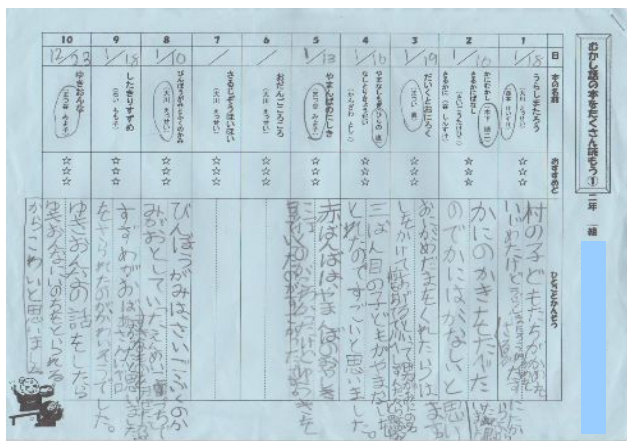


図3 読書記録カード

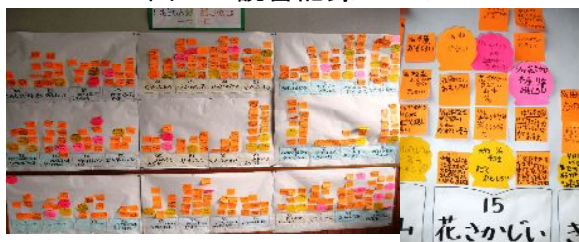


図4 学年の読書記録掲示板

(2) 単元計画と授業の実施

広島市立A小学校第2学年B組を対象に「むかし話を読んでつたえあおう『かさこじぞう』」の単

元計画 (表3) を作成し、平成23年12月21日～平成24年1月20日に実施した。

表3 単元計画「むかし話を読んでつたえあおう」〔全11時間〕

単元	時	読書の目標	学習活動	読書の進め方		本時の評価規準
				読書の進め方	読書の進め方	
一	1	読書したことを活用する方法を考える	与えられたテキストをたどって読書し、自分の考えをまとめる。	①	○	「かさこじぞう」を読んで初歩の感想をもつ。昔話の学習に見通しをもつ。(ワークシート・行動)
	2			②	○	「かさこじぞう」のあらすじと場面構成を読み取る。内容の大体を交流活動を参考にまとめていく。(ワークシート)
	3			③	○	「かさこじぞう」を読んで、昔話独特の表現や文を探し、工夫を体験する。自分が選んだ昔話らしい言葉を工夫して表現している。(ワークシート・行動)
	4			④	○	じいさまの人がらについて考える。課題をもとにじいさまの人がらについて考え、自分の感想や考えを表現している。(ワークシート・行動)
	5			⑤	○	ばあさまの人がらについて考える。課題をもとにばあさまの人がらについて考え、自分の感想や考えを表現している。(ワークシート・行動)
	6			⑥	◎	「かさこじぞう」を読んで、好きなところについて交流し、自分の読みを広げる。別の昔話を読み、あらすじをつかむ。内容の大体を交流活動を参考にまとめていく。(ワークシート)
二	7	読書したことを活用する経験を考える	自分の考えをまとめる。	⑦	◎	「かさこじぞう」の読みを生かして、別の昔話のおすすめの場所を紹介し合い、読みの世界を広げる。好きなところの交流を通して、友達の良い意見に気付いている。(ワークシート)
	8			◎	◎	おすすめの前話を決め、紹介文を書き、おすすめの前話の「感想交流会」に向けて準備する。おすすめの前話について自分の思いや考えを言っている。(ワークシート)
四	9	自分の考えをまとめる。	自分の考えをまとめる。	⑧	◎	おすすめの前話について交流し、読みの世界を広げる。質問をしたり、感想を述べ合ったりすることで、読みの世界を広げている。(行動)
	10			◎	◎	おすすめの前話の「感想交流会」と昔話の学習を終えて、自分の学びを振り返る。自分の読みが広がったことに気付いている。(ワークシート)
五	11			⑨		昔話のよさや自分の学びに気付いている。(ワークシート)

○:「自己内対話」「グループ対話」「全体対話」を取り入れた学習過程
◎:「感想交流会」を行った学習過程

3 検証授業の分析と考察

(1) 分析の視点と方法

授業中のワークシートや振り返りの記述、読書記録カード、対話記録、授業観察記録などに見られる児童の反応を次の視点で分析する (表4)。

表4 分析の視点と方法

つけたい読書力	見取りの視点と方法
① 読書への興味・関心	読書記録カード(昔話を読んだ冊数) 学習の振り返りシート(記述の分析)
② 本や文章を選ぶ力	おすすめの前話選び(題名と内容の分析) 「読みたくなった昔話」選び(記述の分析)
③ 読書したことを適用させる力	ア 自己内対話 (記述の分析) A 明示的情報の焦点化・情報の引き出し B 直接的な推測
	イ グループ対話 (対話記録) C 考え・情報の解釈・統合 ◎ テキストの情報を比較したり対照させたりする ① 物語のムードや調子を推測する ② テキストの情報の実際の世界への応用を解釈する

(2) 分析と考察

ア ①読書への興味・関心について

(7) 読書記録カードより

読書記録カードには、おすすめの昔話33冊と自分で自由に選んで記録できる本を合わせて40冊分の記録が書けるようにした。2年生17人の11日間の読書記録の集

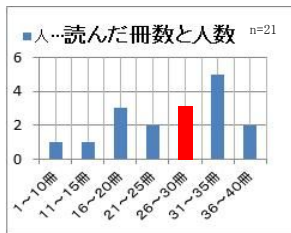


図6 読んだ冊数と人数

計により、一人あたり約2.6冊の昔話を読んだことがわかる(図6)。このことから単元を貫く言語活動である「感想交流会」を意識して、児童が意欲的に昔話の本を読み進めたといえる。

(イ) 学習の振り返りシートより

児童の昔話の読書に対する興味・関心が全11時間の学習過程の中のどこで高まったと考えられるかを分析した(図7)。

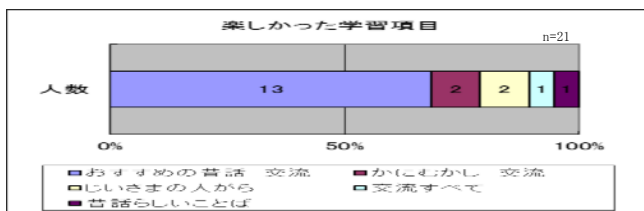


図7 楽しかった学習項目

68%の児童が「楽しかったところ」として選んだ学習過程が「おすすめの昔話交流」であった。この交流は「むかしばなしやさん交流会」と名付け、おすすめの本を紹介する側の児童は本屋さんの気分で紹介したものであるが、交流が読書への興味・関心を高めるきっかけになったと考えられる。児童が「おすすめの昔話交流」を選んだ理由については次のような記述が見られた。

- (上位児) みんなで自分のおすすめのむかし話を言い合ってもっと読みたくなった昔話がいっぱいあったので楽しかったと思いました。
- (中位児) りゆうは今まで読んできた本を読んだりしたり、人の発表する本を聞いたりしたから最後に交流会をできてよかったです。
- (低位児) とてもみんなのいけんが聞けて新しい気づきもとても楽しかったです。

この記述から普段の国語の力にかかわらず、友達と感想を述べ合ったり、質問し合ったりすることを楽しんでいることが分かる。感想交流という楽しか

ったと思える経験が昔話への興味を高めたり、今まで気付かなかった見方に気付かせたりしたのではないと思われる。また、児童の学習姿勢から、この学習に対して意欲の高い児童が「おすすめの昔話交流」を選んでいることも分かる。

イ ②本や文章を選ぶ力について

(7) 「おすすめの昔話」選び

21名の児童が第四次9時間目の授業で、それまでの並行読書の中から一番の「おすすめの昔話」を選び、理由も考えることができた。

①うらしまたろう ②かぐやひめ ③かちかち山 ④きんいろのきつね ⑤きんたろう ⑥さんまいのおふだ ⑦したきりすずめ ⑧しっぽのつり ⑨だいくとおにろく ⑩ねずみのすもう ⑪はなさかじい ⑫びんぼうがみとふくのかみ ⑬ふしぎなたけのこ ⑭へっこきあねさがよめにきて ⑮ぼうさまの木 ⑯ももたろう

※ 太字斜体は複数の児童が選んだ昔話

16通りの昔話のうち、複数の児童が選んだ昔話が5話あった。5話の昔話の共通点を考えてみると、登場人物の人物像が明確であること、そして、登場人物が対照的であることが挙げられる。

(イ) 「読みたくなった昔話」選び

感想交流会後(第四次11時間目)の児童のワークシートの記述によれば、一人あたり1.36話を「読みたくなった昔話」として挙げている。さらに、約88%の児童が感想交流会での交流がきっかけで「読みたくなった昔話」を選んでいることが分かる。

「びんぼうがみとふくのかみ」……K君のせつめいでなんかおもしろそうだったから読んでみたいと思いました。

「きんいろのきつね」……まだきつねが出てくるむかし話を読んでないし、F君のいけんですきなところがすごくあったから読みたいたいと思いました。

ウ ③読書したことを適用させる力について

「読書したことを適用させる力」を、「読みの交流」を行っている児童の様子から見ることにする。全学習過程の中に7回の「読みの交流」を取り入れ、このうち3回は「感想交流」であった。この部分に焦点を当て、児童の姿を分析する。

(7) 自己内対話

「自己内対話」とは、テキストに向き合い、自分の意見や考えをまとめることである。PIRLSの理解の過程である、「A明示的情報の焦点化・情報の引き

出し」「B直接的な推測」がこれに当たる。そこで、Aを「おすすめのところ」を自分で明示できていること、そしてBを「おすすめのところ」を選んだ理由を記していること、ととらえることにする。

第9時の「おすすめの昔話」の学習においてはどの児童もおすすめのところを二つずつ明示することができ、選んだ理由についても記述することができていた。これは以下の手だてが有効に働いたためであると考えられる。まず、「おすすめのところ」を選ばせるために具体的にどんなところかクラス全体で考えさせ、「心に残ったこと」「おもしろかったこと」「ふしぎなところ」等文章を選ぶ理由を明確にさせたことである。「おすすめのところ」として登場人物や昔話らしい表現も紹介してよいこととし、「おすすめのところ」の選択の幅に広がりをもたせるようにした。もう一つの手だては、各自に付箋をもたせ実際に文章を選ぶ際にテキストに貼り、叙述に即して理由を書かせたことである。このため、21名全員が短時間で150文字程度の紹介文を書くことができた。

『小学校学習指導要領解説国語編』に「読む目的に照らして読書活動を振り返り、どのような読む力を身に付けたかを確かめ、読書生活に生かしていこうとする態度を養うようにすることが求められる」とある。その点を分析するべく、学習後どの学習過程が「賢くなった」と考えられるかを児童に尋ねると「おすすめの昔話の紹介文を書く」を選んだ児童が一番多かった(図8)。選んだ理由については、

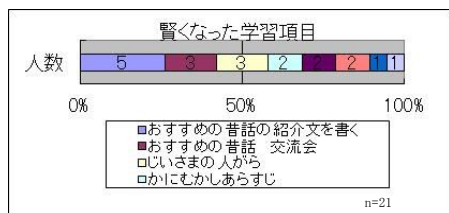


図8 賢くなった学習項目

「むずかしかったけど前よりじしんをもって書けた」「おすすめのわけを書くとき頭をつかった」「むかし話を決めるのに頭をつかう」などの言葉が見られた。このことから自己内対話の充実が読む力を身につけた実感をもつことができ、自信をもって学習に臨めることにつながると言える。

(イ) グループ対話

「グループ対話」とは、集団の中で自分の思いを伝え、自分の考えを確認したり質問したり、感想を言ったりすることである。PIRLSの理解の過程である「C考えと情報を解釈し統合する」がこれに当たる。本単元の「感想交流会」での児童の全対話記録の分析から典型的な表現を類推し、帰納的にまとめた(表5)。足立(前掲)が挙げた㊸, ㊹, ㊺3点に新たに話の内容を聞く質問として㊻を設定し、この表をもとに、対話記録の分析を再度行った。

表5 PIRLSの理解の過程の例と児童の発言例

PIRLS理解の過程	児童の表現例
㊸ 情報の比較・対照	〇〇と比べて 〇〇と〇〇ではどちらが好きですか
㊹ ムードや調子を推測	〇〇と思う なぜ〇〇と思いましたか
㊺ 実際の世界への応用	もし〇〇だったらどうしますか
㊻ その他(話の内容を聞く質問)	〇〇はその後どうしたのですか 〇〇って〇〇するのですか

第10時の「昔話やさん交流会」は3人組で行った。グループのメンバーを替えながら、3人で行う対話記録の中で22通りの分析を行った。紹介を聞く側の児童の発言が㊸, ㊹, ㊺, ㊻のどの視点で行われたか、またその割合についてグラフにまとめてみると、以下ようになった。(図9)

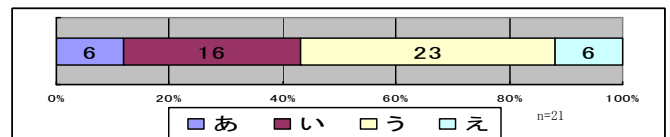


図9 交流における視点㊸~㊻の割合

第9時までの学習過程の中で「自分の経験と結び付ける」ことを意識してきたこともあり、対話の中で㊸が占める割合が最も高い数字を示した。自分と関わらせて読む楽しさを知ったとも言える。

ところで、交流することが本当に互いの思いを分かち合ったり、理解を深めたり想像を広げたりする読みにつながる対話になっているのだろうか。その内容について分析したものが下図である(図10)。

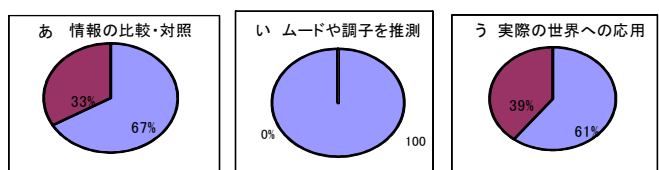


図10 交流が有効に働いた割合(視点別)

これらの結果から非常に明確な傾向を得ることができた。視点①を使った場合、100%有効な交流になっていたのである。「自分は〇〇と感じた。」と感想を応答し合う交流である。それは「なぜそう感じたか。」と問われると発表者も叙述にもどることができるからであろう。⑥の質問では、「二人の登場人物でどちらが好きか」のように選択して理由を述べるものが有効であったと言える。一方、期待していたこれまでの読書体験と重ねて応答する対話は一例にとどまった。また、③の質問では、「もし〇〇だったらどういう気持ちですか」といったようなような質問が質の高い交流を生み出す一方で、叙述を離れて作り話のようなやりとりに陥る傾向が見られた。その他として挙げている②の質問では発表者が非常に真剣に昔話を説明するので聞き手の興味を高める効果が見られた。さらに、話し手の紹介や質問への受け答えの上手さが交流を深める大きな鍵となっていることが分かった。

最後にグループ対話が児童にどんな気付きをもたらしたかについて抽出児童Aの気付きの変容を次に示す。

- | |
|---|
| ①O君のじぞうさまのことがすごくわかりました。(第二次6時)
②K君のいろんなことがすごいと思いました。(第三次8時)
③私は、H君の貧乏神と福の神の顔のことが色の所が変わったことにすごい気付いていると思いました。(第四次10時) |
|---|

文章表記に課題があるが、学習過程の中で少しずつ気付きの質を高めていることが分かる。グループ対話の成果であると考えられる。

V 研究のまとめ

1 成果

構想した「むかし話を読んでつたえあおう『かさこじぞう』」の単元学習の中で読書力の要素として掲げた①「読書への興味・関心」、②「本や文章を選ぶ力」に関して向上が見られ、読書力が向上したと言える。これは、学習過程と読書環境の工夫という手だての有効性からくるものと考えられる。

また、③「読書したことを適用させる力」については「読書したことを適用させる方法を知る」→

「読書したことを適用させる練習をする」→「自分で読書したことを適用させる」という学習過程を仕組むことで少しずつ付いたと考えられる。また、対話の分析から低学年の児童が、「感想交流」する時には聞いている側も叙述に対する感想を述べたり、「なぜそう思うのか」という理由を問う質問をすると質の高い交流になる。また、「どちらか」という選択をさせたり、登場人物に同化して考えたりすることを促す質問も質の高い交流を生む傾向があることが明らかになった。

2 課題

「読みの交流会」では「読書力」だけでなく「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関わる総合的な力が必要となる。それらの指導事項を見据えて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について年間指導計画を立案し、子ども達に継続的、段階的に力を付けていくことが交流活動、ひいては読書力の向上につながると考える。読書の指導が児童の豊かな読書生活につながるよう今後も指導を続けていきたい。

引用文献

- 1) 村松賢一「個に閉じた読書から他者にかかれた読書へ」『教育科学 国語教育 9月号』明治図書 2010 p.9

参考文献

- ① 足立幸子「初等教育段階における国際読書力調査PIRLESの特徴―他の国際テスト・国内テストとの比較から―」『新潟大学教育人間科学部紀要第9巻 第2号』新潟大学 2007
- ② 塘岡裕子「言語力を培い感性を高める学校図書館教育のデザイン～発達段階に応じて読書の質を高める指導プランと実践～」『平成21年度研究紀要 第38集』熊本県立教育センター 2009
- ③ 難波博孝・尾道市立因北小学校『ジグソー学習を取り入れた文学を読む力の育成』明治図書 2011